

三節

筆記の激しさによる著者の頭痛——その説明——現行法律の

欠陥——靈的知識の欠如——地縛靈——早世した靈の得失

——体験と試練の必要性——“動”の世界と“静”の世界

——宇宙の内的世界の分類と地上生活の位置——悪の世界へ

の墮落——極悪靈の辿る運命——イエスの述べた“赦し難き

罪”とは

罪”とは

序論

自動書記について——文体の特徴——通信靈について——通

信が来る時の状況——靈媒による脚色の問題——靈媒が意志

を行使できる限界——インペレーター——靈の使命——著者モー

ゼスの意図

一節

新しい靈的真理普及の時代——これを阻止せんとする勢力の

存在——神の啓示——その進歩的連続性——人間による歪曲

——破邪と顕正——背後靈とは——地上に戻ってくる靈——

邪霊集団とその働き——悪とは——地上時代の性格の存続

——個性の発達——死後その靈性に相応しい境涯に落着く

——悪魔

四節

作曲家アーンに関する詳細な記述——靈の情報入手方法——

その実験

五節

靈的能力の種類——インスピレーションを受けるための条件

——ドグマと偏見と懷疑と不安が難敵——イエスに見る理想

の人間像——人間に完全は不可能——瞑想のための魂の個室

を設けよ

二節

真の博愛主義者——真の哲学者——永遠の生命——神——善

と悪との葛藤——戦死靈、自殺靈、死刑靈の影響——犯罪人

の扱い方の問題点——集団収容と絞首刑の弊害——更正を目

的とした処罰——死刑は復讐心を増幅させる——神の認識の

六節

ダービーによる悪影響——祭日の功罪——通信を可能にする

条件と不可能にする条件——極端な節制の弊害——中庸こそ

大切——死後の結婚の絆——進歩の法則と親和力の法則——  
通信内容に矛盾が生じる原因

## 七節

新プラトン主義——スーフィズム——靈的真理の普及を妨げるもの——似非神学者——似非科学者——先入的ドグマによる偏見——宗教の名に値するもの——理性こそ最高の指針

47

## 八節

著者の信仰上の遍歴——宗教の二面性——神とは——神と人間——理性なき信仰——派閥主義——賞と罰——神の絶対的公正——神は哀れむが情けはかけず——人間としての生活規範——神と同胞と自己への責務

51

## 九節

著者の反論——宗教的夾雑物——贖罪説について——再び著者の反論——署名に十字架を冠する理由——バイブルは人間的産物——字句に絶対性はあらず——神の概念の発達——啓示の信頼性は靈媒の受容度による——バイブルは誤謬だらけ。故に新しい靈的啓示と衝突するのは当然——靈団による思想上の指導方法——十字架の真の意味——キリストの使命と靈団の使命は同一

56

## 十節

再び著者による反論——回答——キリストが受けた反論との比較——新しい真理は反撃に遭う宿命をもつ——神学的ドグマの誤りの指摘——宇宙は不変の摂理に支配される——真理探求と向上の中に真の幸福がある

67

## 十一節

靈団による著者への支配の強化——著者によるキリスト教の弁護——回答——正直な疑問は無批判の信仰に勝る——絶対的証拠にも限界——『果実によって木を知るべし』——人間の見解は無価値——宗教は単純素朴なもの——真理は一個人——宗教の占有物にあらず——アテノドラスからアキリーニに至る真理の系譜——靈団士の見解の相違は説き方の相違——靈団による段階的思想操作——インペレータ——靈団は神の計画遂行のために派遣された多くの靈団の一つ——啓示の源は一つ——神は真理を提供するのみ——その諾否は各自の理性的判断と自由意志に任される——イエス・キリストの位置づけ

74

## 十二節

著者の苦衷と不信——回答——根源的過ちは神と人間との関わりについての誤解——悪魔——邪霊は自らが招く

84

十三節 ..... 91

再び著者の反論と苦衷の開陳——回答——忍耐と祈りの必要性——祈りとは——霊側から見た祈りの効用——インペレータ—、著者を叱咤する——死せる過去より生ける未来に目を向けよ——新しい真理に対する世間の態度

十四節 ..... 99

目に見えざる師を信ずることの困難さ——知的難問との葛藤——著者が辿り着いた結論——スピリチュアリズムに関する著者の見解——回答——「スピリチュアリズムは神の声」——交霊は科学を超えた法則が支配——媒の管理の不徹底

十五節 ..... 107

スピリチュアリズムの宗教性——絶対的真理は存在せず——「最後の審判」は無し——罪はそれ自らの中に罰を含み、犯した瞬間より責任を求める——キリスト教的天国地獄観を論駁——交霊現象に関する誤解を正す——悪とは——スピリチュアリズムは地球規模の啓示

十六節 ..... 115

これまでの霊信の総括——恐怖を吹き込む教義は魂を萎縮させる——宗派の別は些細な問題——どの宗教にも真理と誤謬が混在する——真理を独占する宗教は皆無——キリスト教神

学は諸悪の根源——キリストの福音は生命の不滅性の証明——それが宗教の根幹

十七節 ..... 119

著者の不満と要望——拒絶とその理由——これまでの霊訓の復習——著者に反省を求めるために霊団の一時総引上げを示唆——数学的正確さをもつ証拠は提供不可能——キリストの「私と父は一つである」の真意——著者の旅行先での霊信——性急な要求は事を損ねる——猜疑心の及ぼす影響——著者の忍耐と理性的判断を重ねて要請